
アキタラクティブ アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で
深い学びのために～

生活編

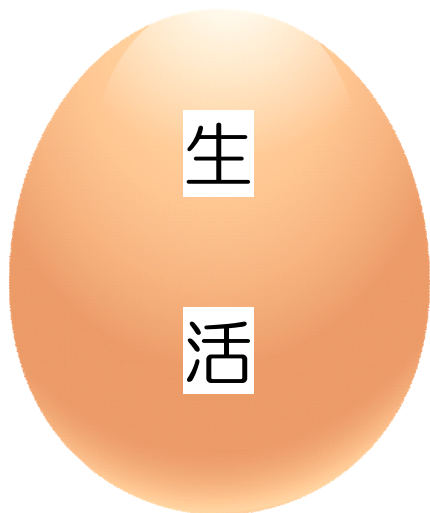


秋田県総合教育センター

2019.10.10

学びの出発

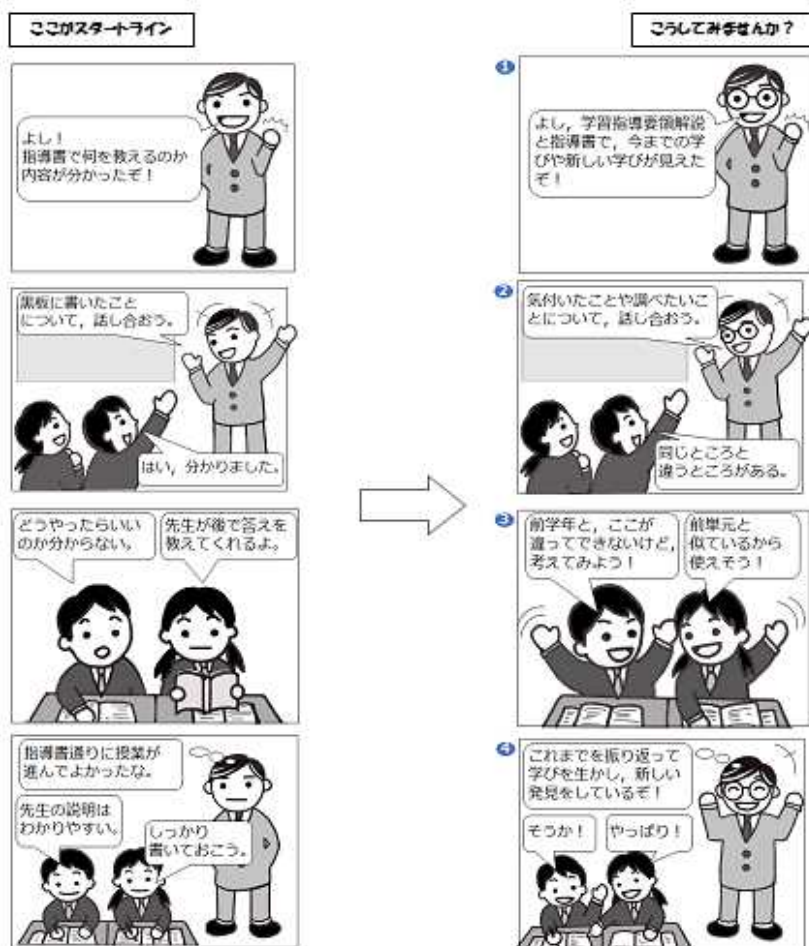
これまでの学びを振り返り，学びの中での気づきを
手掛かりに新たな学びが始まる。



キーワード

具体的な活動や体験

スタートカリキュラム



1 わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

- ・ 自立して生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を目指します。
- ・ 学校で積み重ねられた実践や年間指導計画を基に，学びの関連・系統を理解しましょう。

【知識及び技能】

知識の基礎は「気づき」、技能の面は「生活上必要な習慣や技能」。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

「見付ける、比べる、たとえる」（分析的思考）に新たに加わった「工夫する、試す、見通す」（創造的思考）

【学びに向かう力、人間性等】

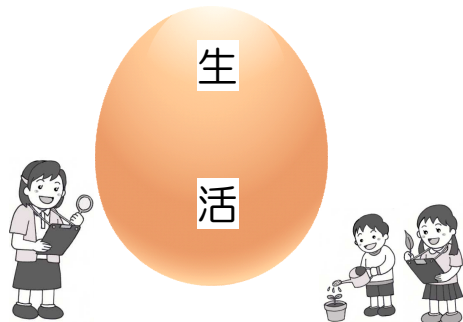
自ら対象に働き掛ける意識の形成，意欲や自信をもって学んだり，生活を豊かにしたりしようとする態度

◇入念な教材研究をする

- ・ 教師の指示ではなく，子どもの思いや願いから始まる活動や体験を目指します。気づきの質が高まる様々な学習活動を考えてみましょう。

気づきの質を高めるヒント

- ・ **感じ、考え、気付く**などの身体を通して対象に直接働き掛ける体験
見る，聞く，触れる，作る，探す，育てる，遊ぶなどの学習活動
- ・ **比較、分類、関連付け、視点移動**などの分析的思考
見付ける，比べる，立場を変える，選ぶ，見分けるなどの学習活動
- ・ **工夫、試行、見通し、予測**などの創造的思考
特徴を生かす，試行錯誤する，計画を立てる，生活に生かすなどの学習活動
- ・ **伝える、相互交流する、振り返る**などの表現する力
言葉，絵，動作化，劇化などの学習活動



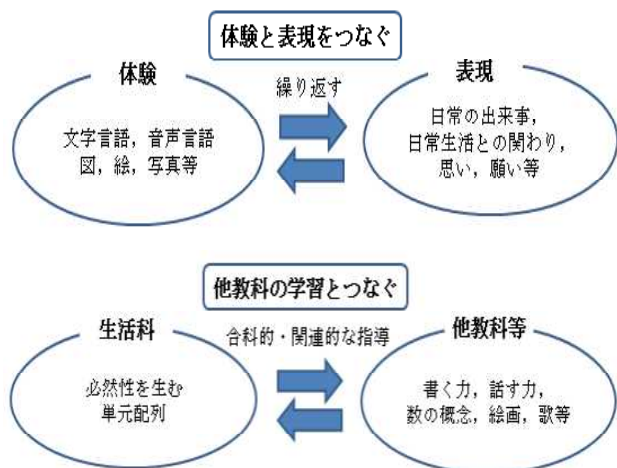
2

3

学びをつなげるために

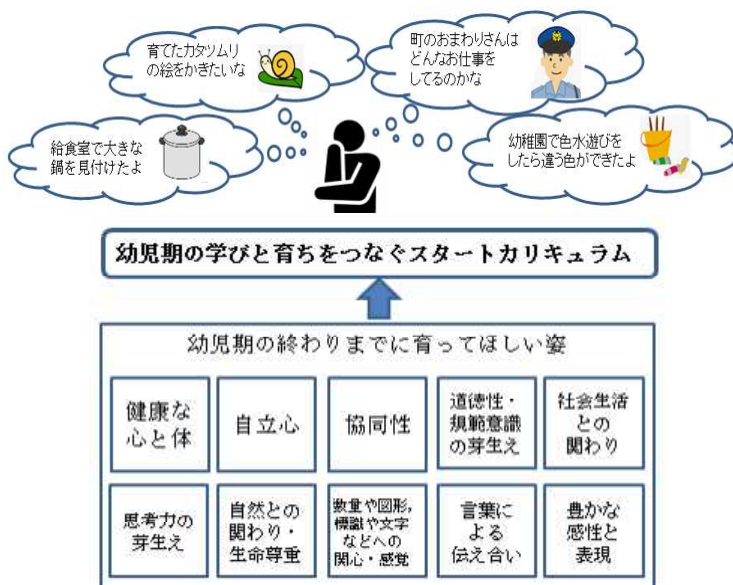
◇教科等の特質を踏まえる

- ・子どもの身近な生活圏（人，社会，自然）を活動や体験の場の対象として，思いや願いを実現していく過程を重視しましょう。
- ・身近な人々，社会及び自然，自分自身の成長への気づきを促しましょう。



◇子どもの声に耳を傾け受け止める

- ・具体的な活動や体験を通して，様々な関わりから生まれる気づきや思い，願いを大切にしましょう。



4

新たな学びを出発させるために

◇適宜,振り返る場面を設定する

- ・季節や行事，学びのタイミングを計って，体験したことを振り返る場を設定しましょう。
- ・図や絵，写真等を用いて，具体的に振り返ることができるように工夫しましょう。

例) 幼稚園 ↔ 小学校第1学年

「幼稚園のとき，1年生に優しく遊んでもらったよ。今度は，ぼくが年少さんと遊んであげたいな。」

例) 小学校第1学年 ↔ 小学校第2学年

「1年生のとき，2年生のお姉さんに学校探検に連れて行ってもらったよ。私も入学してきた1年生を学校に案内してあげたいな。」

◇課題づくりの場を設定する

- ・生活科に「課題づくり」はありませんが，身近な人，社会，自然に働き掛ける場を設定し，子どもたちの思いや願から，次の活動が生まれるようにしましょう。

活動例



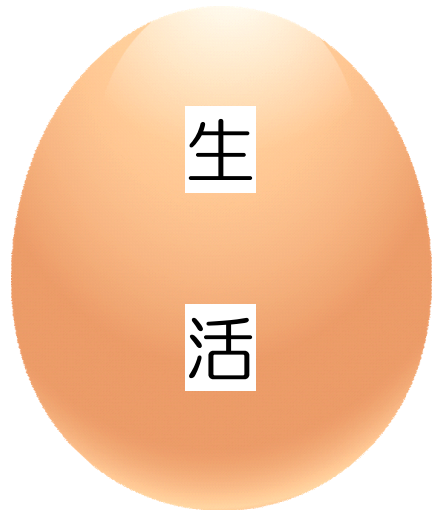
学校探検みたいに町も探検したいな



みんなで秋を探したいな

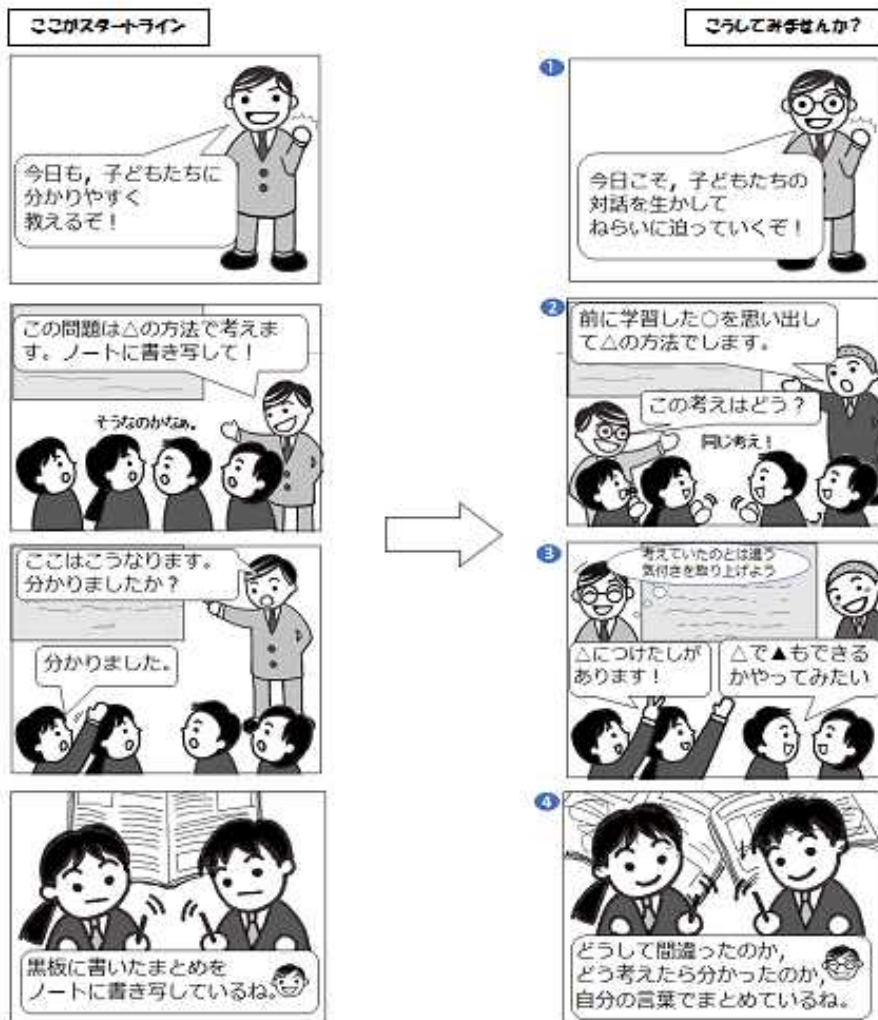
学びの再思考

互いの考えを伝え合い、相手の考えを受け止め、自分の考えを練り直す。



キーワード

関連付ける



1 ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

・身体を通じた活動と、思考との関連を考えて、学習活動を吟味しましょう。

学習活動と思考との関連	
学校、家庭及び地域の生活に関わること	
(1) 学校と生活	見付ける, 予測する
(2) 家庭と生活	振り返る
(3) 地域と生活	見付ける, 予測する
身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること	
(4) 公共物や公共施設の利用	見付ける
(5) 季節の変化と生活	見付ける, 比べる
(6) 自然や物を使った遊び	試す, 見直す, 工夫する
(7) 動植物の飼育・栽培	働きかける
(8) 生活や出来事の伝え合い	視点を移動する, 選ぶ
自分自身を見つめること	
(9) 自分の成長	見付ける, 比べる, 関連付ける

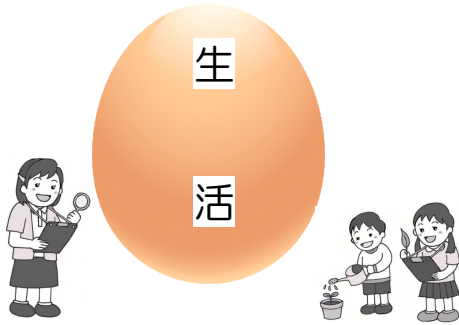
◇効果的な学習支援を考える

・子どもの思いや願いは変化し、活動に必要な時間も子どもによってそれぞれ異なります。

例) 場合によっては、必ずしも45分で区切らない活動の保障をする。
長期休みの栽培や飼育の在り方を考える。

・「個人差」「変容」を見取り、対象に主体的に関わることができるような支援を考えましょう。

例) 栽培を通して、嫌いだったミニトマトを食べられるようになるまでの変容を長い目で見守る。



2 「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

- ・学習や日常生活での子どもたちの驚き、感動、発見、不思議さ等、これまでの子どもの体験等を踏まえましょう。

見方・考え方を

生かす

幼児期における未分化な学習との接続を図る
活動や体験を通した学習との結び付きを図る

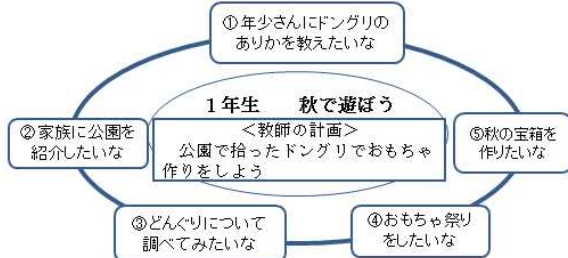
◇多様な展開を考える

- ・活動や体験の場を学校、家庭、生活、地域、公共物、自然、季節等に広げたり、組み合わせたりして展開を考えましょう。
- ・同じ思いや願い同士（集団、ペア、個別）で活動させましょう。

3 気づきを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する

- ・思いや願いを想定して発問を考えましょう。
- ・思いや願いを生かす支援の在り方、活動時間の保障を考えましょう。



子どもの思いや願いには変化がある。
子どもの思いや願いには個人差がある。
子どもの思いや願いの表現の仕方は様々である。

◇想定外の反応にも柔軟に対応する

- ・授業を展開していく際、教師の予想にない、低学年らしい気づきを取り上げ、生かしましょう。
- ・子どもから生まれる思いや願いは異なる場合もありますが、共通点を見だし、個々の活動をつなげてあげることも必要です。



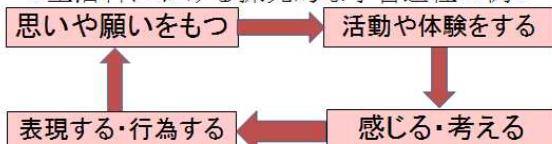
例) 左図「秋で遊ぼう」で⑤の活動を希望した児童がいた場合、教師の計画に誘導するのではなく、他の願いとの共通点を見だし実現させてあげることも必要です。

4 問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にする

- ・子どもと共に活動を創り上げ、直接対象と関わり感じたり、考えたりする場面を大切にします。

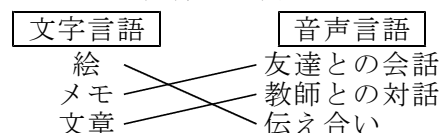
<生活科における探究的な学習過程の例>



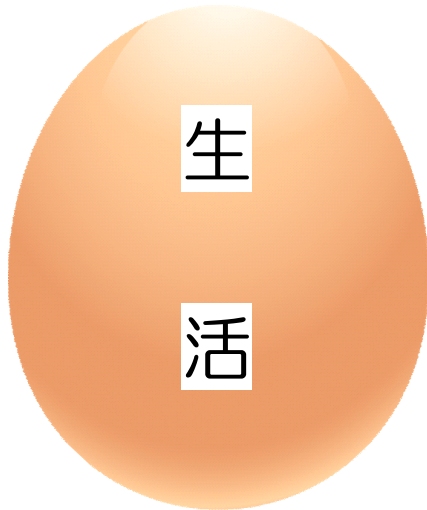
◇獲得した学びをまとめる場を設定する

- ・探究的な学習過程を重視するとともに、「伝える」「相互交流する」「振り返る」等の場面で、表現活動を組み合わせて工夫しましょう。

<組合せの例>

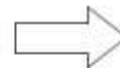


連続する学びは力へ。
新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。



キーワード

個人内評価
生かす
引き出す



1

活用・発揮を促すために

◇学んだことが生かされる場面を設定する

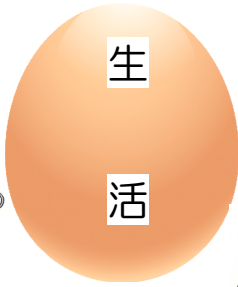
- 学んだことが生かされる視点から、比較する、分類する、関連付ける等の場面を設定しましょう。
- できなかったことができるようになるまでのプロセスを可視化するなどして、学びのよさを顕在化することも必要です。



◇振り返りから課題を引き出す

- 言葉や絵、動作化、劇化などの多様な表現活動を通して新たな気づきを引き出しましょう。
- 生活科に「課題」という言葉はありませんが、伝え合う中で、気づきの質が変わり、次につながる新たな学びが生まれます。





2 学びを見取るために

◇評価方法を検討する

- ・挙手の多さ、まとめ方のデザイン等について見取るよりも、過程の見取りを重視し、パフォーマンス評価や意思的な側面から捉えましょう。
- ・子どもがもっている感性や、思いやりをもって接している場面等についても、個人内評価として記録するなど、細かな変容も大切にします。

◇授業プランを修正する

- ・振り返りカードや発表、グループでの話し合い等から個人のよい点や可能性、変容について見取り、授業に生かしましょう。

例) 「もう一回探検したい」という気持ちを生かす。野菜の栽培を通して見られた感性の変容を見取る。

学習に対する評価と指導に対する評価を切り離さないで授業プランを修正し、教育課程や学習指導の改善へと発展・展開させましょう。

3 学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

- ・表現したものから変容を見取って意図的に紹介するなど、全体に広げましょう。
- ・記憶から消えやすい「つぶやき」「しぐさ」をできるだけ記録し、成長と捉えられる変容について、本人や保護者に伝える材料にしましょう。

◇フィードバックして働き掛ける

- ・フィードバックは、活動前、活動中、活動後等のタイミングを考え、学びへの実感を促しましょう。

例) 共感を大切にす。尋ねたり、問い掛けたり、全体に紹介したりするタイミングを考える。

4 新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

- ・板書や映像等を用いるなど、工夫しましょう。



◇新たに学びが連続するようにする

- ・「もっと～してみたい」等の思いや願い、つぶやきを引き出して次の活動につなげましょう。

今度は別の野菜を自分で育てて食べてみたい



- ・他教科とつながる働き掛けも大切です。中学年以降の学びも意識しましょう。

自分が住んでいる町のことをもっと知りたい



Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～

